

AXIES 学術・教育コンテンツ 共有流通部会 (SIG-CSD)

京都大学 喜多 一
(部会担当理事)

学術・教育コンテンツ 共有流通部会 (SIG-CSD)

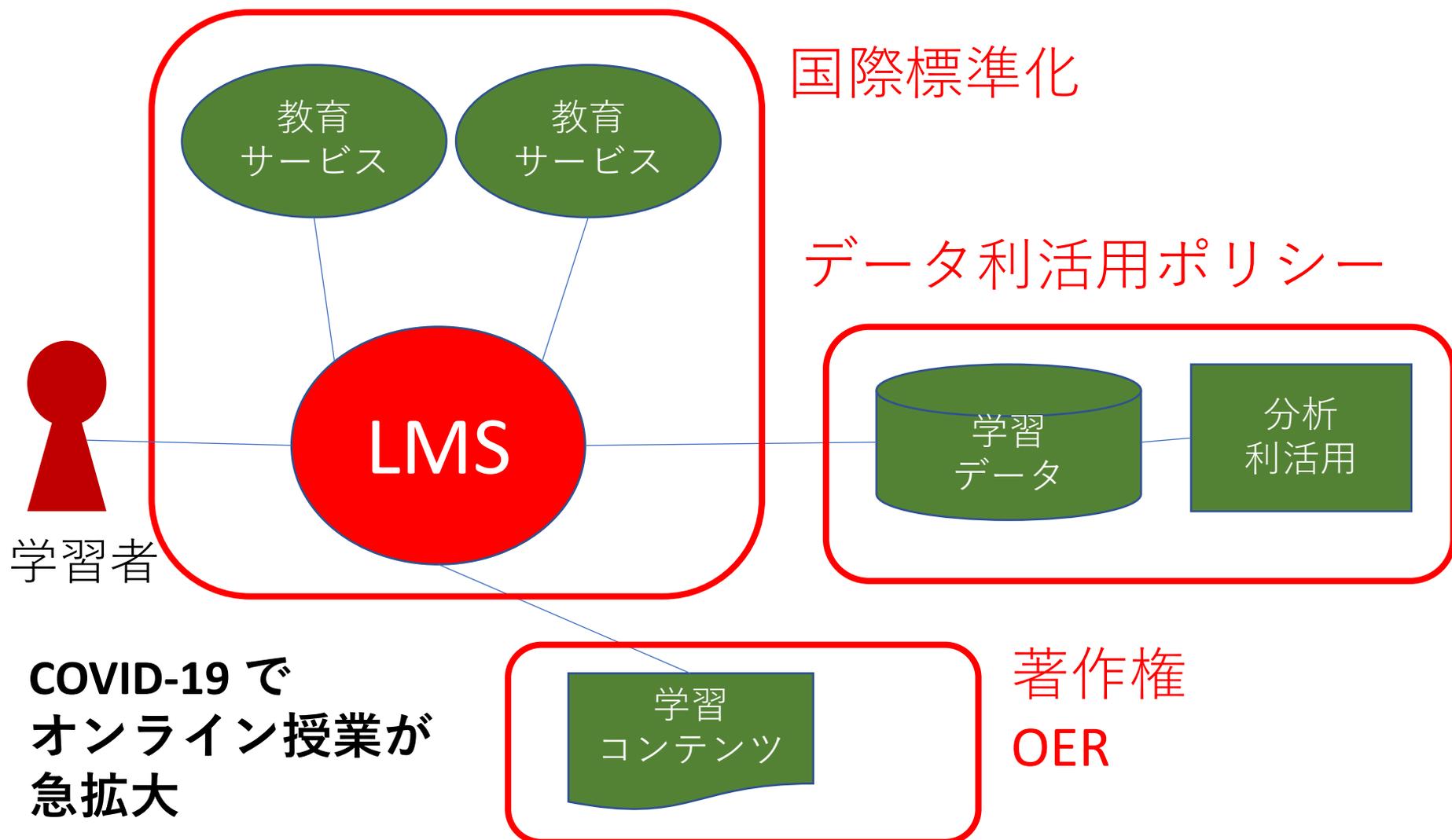
活動目的：大学等において開発蓄積された、学術・教育コンテンツの共有・流通・再利用・標準化を促進し、日本の大学の学術と教育の振興を図る。

主査 山田恒夫（放送大学）

以下のタスクフォースを設けて活動

- 次世代メタデータ検索・リポジトリ連携TF
- 学習解析（LA）ポリシー導入支援TF
- 大学等における教材開発・利用時の著作権対応に関する共通指針TF(著作権改正TF)
- OER/MOOC等Open Education TF（JMOC、JOCWとのリエゾン）
- e-Learning国際標準化TF（日本IMS協会とのリエゾン）
- 映像コンテンツ開発再利用支援システムTF

COVID-19 とオンライン教育



LA のためのポリシー開発

- LMS などに蓄積される学習情報の分析 (Learning Analytics) は、エビデンスに基づく教育の改善やパーソナル学習を実現する鍵
- しかし、同時に学習情報は個人情報としての適切な保護が必要。
- 保護を懸念し、「利用しない」という態度にとどまることを防ぎたい。
- 高等教育機関でのデータ利活用を促進するため「教育・学習データ利活用ポリシー」のひな型を開発して提供を進める。

改正著作権法への対応

- 平成30年の著作権法の改正で、著作物の教育利用のための権利制限について、補償金の支払いを伴った異時公衆送信が認められた。
(令和2年4月に緊急に施行)
- これに関する環境整備のため、「著作物の教育利用に関する関係者フォーラム」が活動。
- **AXIES** (当部会) では、このフォーラムにオブザーバ (令和元年度からは委員) を派遣
- 年次大会の企画セッション等で、大学関係者と状況を共有

コンテンツ共有流通の高度化への対応

- 創設時より、OERの普及とそのリポジトリ連携を推進（LOMなどの国際標準に対応）
- 2019年11月UNESCO総会で新たなOER勧告が採択（日本政府も今秋国会報告準備中）、それを受けてUNESCO OER Dynamic Coalitionグループが構成（文科省の要請で主査が参加中）
- COVID-19パンデミックで復活したOERとMOOCの次世代化（新たな国際標準化の必要性）、N²GDLEでのコンテンツ開発流通を実現するため、日本IMS協会とも連携